

令和5年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	5001	領域略称名	西アジア都市
研究領域名	都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究		
領域代表者名 (所属等)	山田 重郎 (筑波大学・人文社会系・教授)		

(評価結果)

A－ (研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた)

(評価結果の所見)

本研究領域は、「都市の本質」の理解を研究課題として設定することにより、西アジアの考古学を中軸とした文献学・自然科学（地球科学・分析化学）、さらには歴史学・文化遺産学・建築学などとの学際的な連携を通じて、近現代まで射程に入れた考察を行い、新しい融合研究領域の確立を目指すものである。新型コロナウイルス感染拡大の制約がある中、海外調査の遅れを取り戻し、貴重な新資料を発見するなど、満足すべき多くの個々の研究成果を残した。また、本研究領域全体の成果の国際的発信のため、英文研究叢書の刊行が予定されている点も評価したい。

その一方、研究課題とした「都市とは何か」という問いをめぐっては、本研究領域全体としての成果の概要からは新規性が感じられず、従来の都市理解を超えた新しいパラダイムを示すことができたとは言い難い。目的とした都市・人間社会・環境の三者関係の考察を通じた現代都市文明のサステナブルな将来への提言をするまでには至っていない。また、新しい融合研究領域の形成という基本的な目標については、学際的連携の協働成果が具体的に見えにくく、融合研究領域の確立に成功したというよりは、まずその端緒に就いたという段階に留まっているとの印象を拭えない。